

横須賀小版 「生徒指導が機能する授業」

機能	ねらい こんな授業を	授業や生活での効果	手立て
自己存在感	<p>自分を価値ある存在であると思える。</p> <p>一人一人に学びの実感や達成感を味わせることができる授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信をもち、積極的に取り組もうとする。 ・自分を価値ある存在だと思えるようになり、他の人も認めようとするようになる。 ・主体的に学習することができるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「がんばっているね」等のほめる励ます認める言葉を遣う。 ②一人学びを設定する。 ③全員が考えをもてるような課題を工夫する。 ④つぶやきを取り上げる。 ⑤発言が少ない児童への心配りをする。 ⑥だれもが困っていることや疑問を言える雰囲気をつくる。 ⑦一人一人のよさを認め合う場を設ける。
共感的な人間関係	<p>互いに人として尊重し合う心をもつ。</p> <p>相手のことを考えて、主体的に聴く。</p> <p>誰とでも互いに認め合い、学び合うことができる授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を認められる安心感から、のびのびと自分らしさを発揮し、人を受け入れることができるようになる。 ・間違いを恐れずに発表できるため、前向きに取り組める。 ・集団の中に居場所ができ、安心して生活を楽しめる。 ・相手を敬う気持ちが育つ。 ・安心して対話的な学びができるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①本気で聴いたり反応したりする指導をする。 ②安心して発言できる雰囲気をつくる。 ③相手を傷つけるちくちく言葉は使わないよう呼び掛ける。 ④お互いの考えの違いに気付かせるための話し合いの時間を設定する。 ⑤自分と違う意見も受け入れる。 ⑥うまく発表できない子や小さな声の子も温かく支えるよう声掛けをする。 ⑦集団での学び合いが充実するよう自分の出番を考えさせる。
自己決定	<p>自分で決めて実行する。</p> <p>自分で課題を見つけたり課題に向かって取り組んだりし、自ら考え判断し表現することができる授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めて実行できる楽しさを感じ、活力が生まれる。 ・自分の考えをもって話し合いや活動に参加するため、他の考えと比べたり自分の考えを深めたりすることができるようになる。 ・主体的に学習することができるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自分で考えさせて決める場を設定する。 ②判断に困っている場合は、選択肢を与えたり、教師の考えを示したりする。 ③自分で決めたことは責任を持たせる。 ④考える時間を十分確保する。 ⑤思考過程が分かるノートができるようにする。 ⑥思考過程の分かる板書を工夫する。 ⑦自分の考えを伝える場を設定する。

算数科 1年1組授業案 (1年1組教室)

授業者 横山 仁美

1 単元名 長さ・かさ・広さ「比べてみよう」

2 単元目標

- (1)長さ、かさ、広さの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすることができる。身の回りにあるものの大きさを単位としてそのいくつかで大きさを比べることができる。 (知識及び技能)
- (2)身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすことができる。 (思考力,判断力,表現力等)
- (3)身の回りにある長さ、かさ、広さに関心を持ち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさに気付きながら学ぼうとしている。 (学びに向かう力,人間性等)

3 単元計画

軸	時数	○学習課題 ◎学習問題	★評価 (知技/思判表/態度)
どうやって比べるのかな。	1	○どちらが長いか比べよう。 ◎どうやって比べればよいだろうか。	★長さの直接比較, 間接比較, 任意単位による比較の仕方を理解し, 量の大きさを正しく比べることができる。(知技)
	2 本時	○動かさない物の長さを比べよう。 ◎紙テープで, どうやって長さを比べられるかな。	
	3	○もとを作って, 比べよう。 ◎何のいくつかの長さかな。	
	4	○どちらのジュースが多いか比べよう。 ◎どうやって比べたらいいかな。	★かさや広さの直接比較, 間接比較, 任意単位による比較の仕方を理解し, 量の大きさを正しく比べることができる。(知技)
	5	○かさを比べよう。 ◎どちらが, どれだけ多いかな。	★身の回りにあるかさや広さに着目し, 長さの比べ方を参考にして広さの比べ方を考えている。(思判表)
	6	○どちらが広いか比べよう。 ◎どちらが, どれだけ広いかな。	★量の測定の仕方について, それぞれの方法のよさを見だし, 目的に応じて比較しようとしている。(態度)
	7	○どうやって比べればよいかまとめよう。 ◎長さ, かさ, 広さを比べるときの「オナジン」は何かな。	★身の回りのものの特徴の中で, 比べたい量に着目し, 量の大きさの比べ方を見いだしている。(思判表) ★媒介物を用いて大きさを比べたり, 身の回りにある物を単位としてそのいくつかで数値化して表したりすることのよさに気付いている。(態度)

4 本時の授業（2／7）

(1)本時の目標

身近なものの長さをテープに写し取ることを通して、長さを比べることができる。

(知識及び技能)

(2)授 業 過 程

時	学習活動 (○教師の働きかけ ・児童の反応, 活動)	形態	・留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物
つかむ 10分	<p>動かせないものの長さを比べよう。</p> <p>○先生の車はこの入り口の幅を通るかな。(扉を無くした設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車はここに来られないからわからないよ。 ・横に2人座れるから、通れるかもしれない。 ・縦は、もっと大きいんじゃないかな。 <p>○車の縦と横の長さを紙テープに写したよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり縦も横も、車の方が長いね。 ・私も紙テープに長さを写してみたいな。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・直接比較を思い出させる。 ・前時までに学習した、比べるときのポイント(「端を揃える」「ぴんと伸ばす」「まっすぐ測る」)を確認する。
追究する 25分	<p>紙テープで、どうやって長さが比べられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端から端まで紙テープをピンと伸ばすよ。 ・たるんでいると、長さが変わっちゃうよ。 <p>○どんなところを測って比べるか、3人で決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の高さと机の横の長さを比べたいな。 ・自分の頭の周りの長さ、ボールの周りの長さを比べたいな。 <p>○長さをテープに写してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープを机の端にしっかり押さえて、まっすぐにして、写そう。 ・ボールは、最初に紙テープを押さえたところに戻ってくれば、一周の長さだね。 <p>○写し取った長さを比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端を揃えないと、比べられないよ。 ・紙テープがくるくるしちゃうから、ピンとしないとね。 ・全部のテープをまっすぐにしよう。 ・一番長いのは□□だね。 	一斉 班	<ul style="list-style-type: none"> ・比べられそうな物(黒板に貼れそうな長さ)の見通しをもたせ、測り方を確認する。 ・曲がっているものの長さも測定できることを提示し、様々な「長さ」に目を向けられるようにする。 ・測りたい場所を、3人で選んでから測る。 ・3人組ごとに紙テープを用意し、何度も試行錯誤できるようにする。 ・長さが見つけれない子には、教師や支援員と一緒に長さを手でなぞってから紙テープの活動に入る。 ◆ミライシードに、測定の仕方や測定例をあげておき、困ったときにはヒントとなるようにする。 ・測定の中で、「端を揃える」「ぴんと伸ばす」「まっすぐ測る」を意識できている姿を広げていく。 ・長さを写し取ったテープを模造紙に貼り、端を揃えて長さを比べる。
まとめる 10分	<p>○どんなことがわかったかな。</p> <p>動かせないものや、曲がっているものの長さは、テープに写せる。長さを写した紙テープの端を揃え、まっすぐにすると比べられる。</p> <p>○他にはどんな物を比べたいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の入り口と家の玄関の長さを比べたいな。教室の入り口を写したテープを持って帰って比べてみるよ。 ・比べた様子を iPad で撮ってくるね。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ★紙テープを用いて物の長さを取り出し、端を揃えて長さを比べることができたか。[観察, 発言] ・家庭学習とつなげることで、離れた場所の物も比べることができると実感させたい。

(3)誰一人取り残さないための手立て

早い段階でテープでの測定方法を示し、子供たちに活動の見通しをもたせることで、子供たちが自分たちで様々な長さを見付け、写し取り比べる活動の時間を確保する。

(児童が課題を捉え、子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

自己決定：①自分で考えて決める場を設定する。

(生徒指導の視点)

算数科 2年1組授業案（2年1組教室）

授業者 川又 政哉

1 単元名 かけ算（3）「九九のきまりを見つけていかそう」

2 単元目標

- (1)乗法の意味や乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解し、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 （知識及び技能）
- (2)数量の関係に着目し、乗法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりすることができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- (3)九九を用いて簡単に計算できるよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

3 単元計画

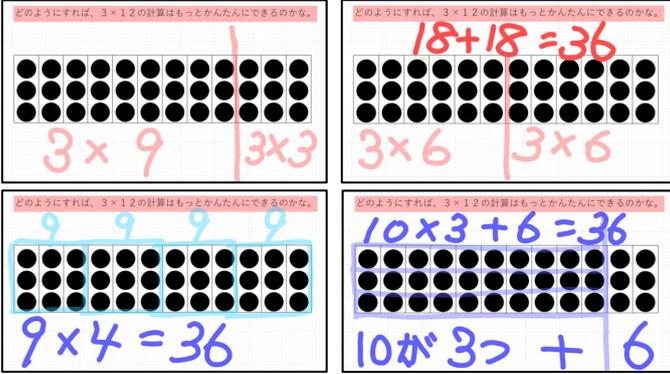
軸	時 数	○学習課題 ◎学習問題	★評価（知技／思判表／態度）
同じ数がいくつもあるとき、どうやって早く数えることができるかな。	1	○九九の表を作成し、九九の表から「きまり」を見つけよう。 ◎どのように数がふえていくのかな。	★数の規則性や増え方に関する特徴を調べることを通して、九九表におけるきまりを見つけることができる。（知技）
	2	○九九の増え方について、説明しよう。 ◎かける数が1ずつ増えていくときの増え方を、どのように説明すればよいかな。	★九九表やアレイ図などを基にして「いくつ分ずつ増えるきまり」を用いて計算の仕方を考えている。（思判表）
	3	○かけ算のきまりをつかって、計算を工夫しよう。 ◎どうして 3×5 と 5×3 の答えは同じになるのだろう。	★交換法則を用いて、順序が異なっても同じ結果になることを確かめることができる。（知技）
	4	○かけ算のきまりをつかって、計算を工夫しよう。 ◎どのようにすれば、 6×8 の計算をもっと簡単にできるのかな。	★分配法則を利用して、かけ算の分割による計算の方法について理解することができる。（知技） ★乗法の計算について成り立つ性質を活用して、計算を簡単にしたり確かめたりしている。（思判表）
	5 本 時	○九九を越えたかけ算の答えを考えよう。 ◎どのようにすれば、 3×12 の計算をもっと簡単にできるのかな。	★乗法を活用することで、数のまとまりを効率的に求められるよさに気づき、かけ算の答えを求めようとしている。（態度）
	6	○たくさんのを、まとめて数えるための方法を考えよう。 ◎どうしてかけ算を使うと便利なのかな。	★配列されたものの数を数えるとき、乗法を活用することで、その数を簡単に知ろうとしている。（態度）
	7	○何倍するときについて考えよう。 ◎2倍、3倍すると、数はどのように変わるのかな。	★繰り返しの足し算やかけ算を用いて、倍数の考え方や表現について理解することができる。（知技）

4 本時の授業 (5/7)

(1) 本時の目標

乗法の計算について成り立つ性質を活用して、九九を越えた計算を簡単にしたり確かめたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 授業過程

段階	学習活動 (○教師の働きかけ・児童の反応、活動)	形態	留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物
つかむ5分	フーセンガムは、全部でいくつあるのかな。 ○九九を越えたかけ算の答えを考えよう。 ・3の段は3×9までしかない。 ・3×12は「3が12こある」ということ。 ・3ずつ足していけば答えが出るかもしれない。	一斉	・単元の流れを示した学習カードを用いることで、学習内容への見通しを持たせる。
追究する30分	どのようにすれば、3×12の計算をもっとかんたんにできるのかな。 ・前に学習したように「分けて」考えられる。 ・図にまとめてみよう。  ○線を引いたり、囲んだりして「まとまり」をつくる。 ・他の問題もできそう。 ○3×12以外の九九を越えたかけ算に挑戦しよう。 ○前に学習したことがつかえるようですね。みなさんの考え方のどんなところが似ていますか。 ・九九で計算できるようになった。 ・まとめたり、切ったりして、九九に直す。	個別 協働	◆オクリンクでアレイ図を共有し、視覚的理解の支援をしつつ、自由に書き込みができるようにする。 ・同じ問題をホワイトボードにも貼り付けておき、学習班で考える際にも活用できるようにする。 ◆オクリンクで課題配付したボードは、子どもたちが相互に閲覧できるようにし、自分の考え方を見直せるようにする。 ・積を再構成する見方は様々あるが、比較することを通して、より数のまとまりを把握しやすい考え方を引き出していきたい。 ◆複数の課題を用意しておき進度に合わせて取り組めるようにし評価に生かす。
まとめる10分	○計算をかんたんにするために、みんなが考えたことをまとめましょう。 ・九九で分かるように「まとまり」をつくる。 ・分けて、計算しやすい式にかえる。 ○計算をかんたんにするためには、どのようにくふうしたかな。自分が学んだことを振り返りましょう。 ・線を引いて九九のまとまりをつくと、かんたんな九九の計算になった。 ・九九表にないかけ算でも、九九に直して考えることができた。	一斉 個別	・学習カードに振り返りを蓄積することにより、単元を通して学んだことを自分で確認できるようにする。 ★乗法の計算について成り立つ性質を活用して、計算を簡単にしたり確かめたりすることができたか。 [オクリンク、学習カード]

(3) 誰一人取り残さないための手立て

授業単元の指針として単元の流れを示した学習カードを用いる。単元で学習すべき内容と評価規準を教師と子供で共有する。

(児童が課題を捉え、子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

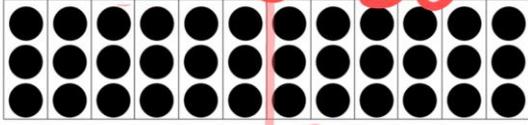
自己決定：①自分で考えさせて決める場を設定する。

⑤思考過程が分かるノートができるようにする。

(生徒指導の視点)

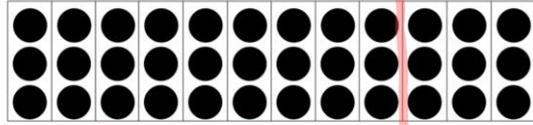
どのようにすれば、 3×12 の計算はもっとかんたんにできるのかな。

$$18 + 18 = 36$$



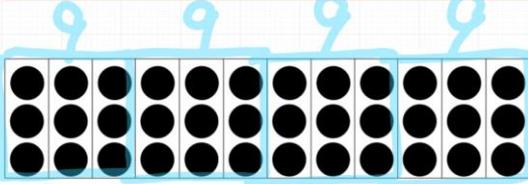
$$3 \times 6 \quad | \quad 3 \times 6$$

どのようにすれば、 3×12 の計算はもっとかんたんにできるのかな。



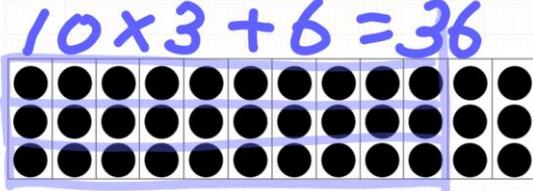
$$3 \times 9 \quad | \quad 3 \times 3$$

どのようにすれば、 3×12 の計算はもっとかんたんにできるのかな。



$$9 \times 4 = 36$$

どのようにすれば、 3×12 の計算はもっとかんたんにできるのかな。



$$10 \times 3 + 6 = 36$$

$$10 \text{ が } 3 \text{ } + \quad | \quad 6$$

算数科 3年1組授業案（3年1組教室）

授業者 鈴木 陽子

1 単元名 小数「ぴったりでない醤油の量はどやうやって表すのかな？～横須賀の特産物から～」

2 単元目標

- (1)端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知り、小数の表し方及び $\frac{1}{10}$ の位について理解することができる。また $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができる。
(知識及び技能)
- (2)数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうか考えている。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3)小数の仕組みに関心を持ち、数理的な処理のよさに気づき、小数を日常生活に生かそうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元計画

軸	時数	【○学習課題 ◎学習問題】	★評価（知技／思判表／態度）
ぴったりでない醤油の量はどやうやって表すのかな？	1	○いろいろな大きさのますを使って、水や醤油の量を表してみよう。 ◎はしたのかさは、何と言えよいだらうか。	★小数の意味、その表し方を理解し、はしたを小数で表すことができる。（知技） ★既習と関連付けて、はしたの表し方を考えている。（思判表） ★単位量よりも小さいはしたの量を数値化して表そうとしている。（態度）
	2	○小数の表し方を知ろう。 ◎1dLより少ない醤油の量は、どやうに表せばよいだらうか。	
	3	○1Lますに足りない量を小数で表してみよう。 ◎1Lますで量った醤油の量に、はしたが出たとき、どやうに表せばよいだらうか。	
	4	○小数を整数の計算と比べてみよう。 ◎2.4dLの醤油は0.1dLが何杯分と表すことができるだらうか。	★小数が整数と同じ仕組みで表されていることを理解している。（知技） ★図をもとに小数の相対的な大きさをとらえている。（思判表）
	5	○小数を数直線上に表してみよう。 ◎数直線上に小数を表すと、どんなことが分かるだらうか。	
	6	○小数のたし算を図や式で表してみよう。 ◎小数のたし算はどやうにして求められるだらうか。	★小数も整数と同じよやうに十進位取り記数法で表すことができることを理解している。（知技）
	7	○小数のたし算の筆算のしかたを考えよう。 ◎2.5+1.3の筆算はどんな仕組みで計算できるだらうか。	★数のまとまりに着目し、小数の数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうか考えている。（思判表）
	8	○小数のひき算を図や式で表してみよう。 ◎小数の筆算はどやうにして求められるだらうか。	★もとにする単位を10等分して端数部分を数値化するよやうに気づいている。（態度）
	9 本時	○どれだけの醤油が残るか求めよう。 ◎整数から小数をひく計算はどやうにして求められるだらうか。	
	10	○位をそろえて計算することに気を付けて、小数の問題を解こう。 ◎どやうやって求めるのがよいだらうか。	★小数の加減法を十進構造で捉え、正しく計算することができる。（知技） ★生活や学習に、小数が活用できる場面を見付けようとしている。（態度）
	11	○学んだことを生かして、いろいろな大きさの容器に入った醤油の量を表そう。 ◎生活の中で、どんなものに小数が使われているだらうか。	

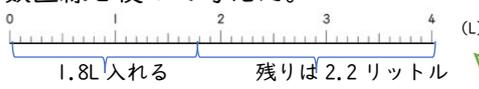
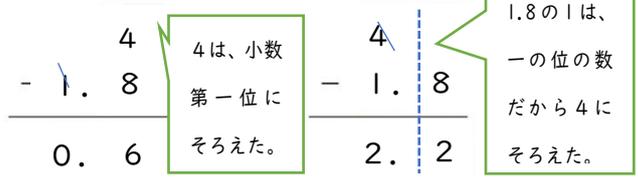
4 本時の授業 (9/11)

(1) 本時の目標

(整数) - (帯小数) の減法の仕方を考える活動を通して、小数第一位が空位の場合どのように筆算するか、数のまとまりに着目して説明することができる。

(思考力, 判断力, 表現力等)

(2) 授業過程

時	学習活動 (○教師の働きかけ ・ 児童の反応, 活動)	形態	・留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物
つかむ5分	<p>どれだけの醤油が残るか求めよう。</p> <p>○醤油が4Lあります。1.8L別の容器に入れると、何L残るだろうか。</p> <p>・引かれる数が整数だから、答えが求められない。</p> <p>○$4 - 1 = 3$をして、答えは3.8Lでいいかな。</p> <p>・容器の大きさを考えると残りが3.8Lは違うと思う。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・見学で見た醤油と課題を結びつけて提示する。 ・前時の課題(小数) - (小数)と比較できるように、前時までの学習の流れを掲示しておく。 ・教師が誤答を出し、課題につなげる。
追究する30分	<p>整数から小数を引く計算は、どのようにして求められるだろうか。</p> <p>○$4 - 1.8$の答えの求め方をノートに書こう。</p> <p>数直線を使って考えた。</p>  <p>筆算で考えた。</p>  <p>・答えが0.6Lでは、残りが少なすぎる。</p> <p>・図や数直線で考えると、2.2Lが答えになりそうだ。</p> <p>○どんなことに気を付けて計算したかな。</p> <p>・4は小数では4.0と表すことができるから、筆算だと1の位に書く。</p> <p>・0.1が何個分か考えて、位をそろえることが大事。</p>	個/協働	<ul style="list-style-type: none"> ◆考えはオクリンクのカードに貼り付け、提出ボックスに提出する。 ・書くことが苦手な児童が操作活動できるようにしますや数直線を書いた紙を用意しておく。 ・相互参照の場をもち、一人一人のよさを認め合う。 ・位取りに着目できるように筆算のマス目を入れて板書する。 ・4を小数第一位に書くと、4.0になることを板書で示し、視覚的に捉えられるようにする。 ・筆算を求めることができた児童には、なぜ3.8が間違っているか改めて問い、ノートに考えを書くように促す。 ・数直線も1目盛りは0.1Lを表していることを押さえ、4は0.1がいくつ分かを確認する。
まとめる10分	<p>○自分の言葉で求め方をまとめよう。</p> <p>0.1の何個分かを考え、小数の位を揃えて筆算を書き、整数と同じように計算して求める。</p> <p>○今日の学習を振り返ろう。</p> <p>・ぴったりでない醤油の量を引くとき、筆算で計算できた。</p> <p>・足し算でも確かめたいな。</p> <p>○練習問題に挑戦しよう。</p>	個	<ul style="list-style-type: none"> ★(整数) - (帯小数)の減法の仕方を考え、どのように筆算するかを数のまとまりに着目して説明しているか。 [行動観察, ノート] ・「よこすか型振り返り」を行う。 ・オクリンクに難易度を分けた練習問題を用意しておく。

(3) 誰一人取り残さないための手立て

工場見学で見た醤油と課題を結び付けることで、児童が問題を自分ごととして捉えることができるようにする。(児童が課題を捉え、子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

自己存在感: ⑦一人一人のよさを認め合う場を設定する。(生徒指導の視点)

算数科 4年2組授業案（4年2組教室）

授業者 宇佐美 侑輝

1 単元名 面積「広さを求めよう。～園小中の土地の広さを比べよう～」

2 単元目標

- (1) 面積の単位「 cm^2 」「 m^2 」「 km^2 」「 a 」「 ha 」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し公式を用いて面積を求めることができる。 （知識及び技能）
- (2) 単位の考えを用いたり、図の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の内面積の求め方、単位の関係について考え、説明することができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 面積を数値化して表す良さに気付き、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の内面積の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追究しようとしていたりしている。 （学びに向かう力、人間性等）

3 単元計画

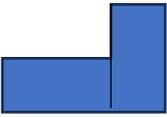
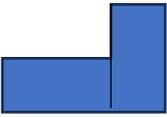
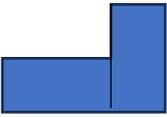
軸	時数	【○学習課題 ◎学習問題】	★評価（知技／思判表／態度）
園小中の土地の広さはどうやって比べればよいだろうか	1	○広さを比べよう。 ◎どうやって比べればよいだろうか。	★面積は単位のいくつかで表されていることを理解し、辺の長さや面積の大きさの関係に着目して、図形をかいたり面積を求めたりすることができる。（知技）
	2	○広さを表そう。 ◎○○の大きさは何 cm^2 だろうか。	★直接比較や任意単位をもとにして、そのいくつかで大きさを比べている。（思判表）
	3	○同じ面積の図形について調べよう。 ◎同じ面積の図形にはどんな関係があるのかな。	★求積公式を適切に用いて長方形や正方形の面積を求めたり、辺の長さを求めたりすることができる。（知技）
	4	○長方形や正方形の面積を求めよう。 ◎長方形と正方形の面積はどうやって求めればよいだろうか。	★辺の長さを利用した計算で面積が求められることを見いだしたり、複合図形の面積も多様な見方で正方形や長方形として捉えて求めたりしている。（思判表）
	5	○辺の長さや面積を求めよう。 ◎どちらかの辺の長さが分からない場合はどうやって求めればよいだろうか。	★求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるよさに気付き、面積を求めようとしている。（態度）
	6 本時	○土地の面積を比べよう。 ◎長方形や正方形でない図形の面積はどうやって求めればよいだろうか。	★ m^2 や a 、 ha 、 km の関係を知り、それぞれの単位を用いて面積を求めることができる。（知技）
	7	○様々な辺の長さの図形の面積を求めよう。 ◎一辺の長さが1cmから1mに変わるとどのくらい大きくなるのだろうか。	★1辺の長さに伴って面積がどのように変化するかを考えている。（思判表）
	8	○実際の土地の面積を測ろう。 ◎横須賀小学校の土地の面積はどのくらい広いのだろうか。	★求積方法を振り返り、様々な形の面積を求めようとしている。（態度）
	9	○辺の長さや面積の大きさの関係を調べよう。 ◎辺の長さや面積はどのような関係があるのかな。	★求積公式を適切に用いて面積を求めたり、辺の長さを求めたりすることができる。（知技）
	10	○辺の長さや形に注意して、面積に関する問題を解こう。 ◎どうやって求めるのがよいだろうか。	

4 本時の授業 (6/10)

(1) 本時の目標

複合図形の面積の求め方を考える活動を通して、複合図形の面積を多様な見方で正方形や長方形として捉え、その面積を求めることができる。(思考力、表現力、判断力等)

(2) 授業過程

時	学習活動 (○教師の働きかけ ・児童の反応, 活動)	形態	留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物			
つかむ5分	<p>土地の面積を比べよう。</p> <p>○大洲小や大須賀中の面積はどうやって求めたかな? ・縦×横で面積を求めた。</p> <p>○ぬく森こども園と横須賀小の面積はいくつ? ・ぬく森こども園と横須賀小は正方形や長方形ではないから、面積が求められない。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の土地と課題を結び付けて提示する。 ・なぜ求めることができないかを表現させ、課題を明確化する。 			
追究する30分	<p>正方形や長方形でない面積はどうやって求めればよいだろうか。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>・出っ張りの部分を切って、2つの長方形として求める。</p>  </td> <td style="width: 33%;"> <p>・大きな長方形から、余分な分を引いて求める。</p>  </td> <td style="width: 33%;"> <p>・小さな長方形と大きな長方形を組み合わせる。</p>  </td> </tr> </table> <p>○自分と共通しているところや違うところはどこだろう。 ・自分の求め方と一緒に図形を縦に切って、たし算をして求めている。 ・自分と違って、全部から余計な部分を引いて求めている。</p> <p>○横須賀小の土地の面積はどうやって求めれば良いかな。 ・分けて考えるよりも、全体から引いて計算する方が簡単に解けそう。</p>	<p>・出っ張りの部分を切って、2つの長方形として求める。</p> 	<p>・大きな長方形から、余分な分を引いて求める。</p> 	<p>・小さな長方形と大きな長方形を組み合わせる。</p> 	個/協働	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学びの時間を確保し、一人一人の考えを尊重する。 ◆考えはオクリンクプラスのカードに貼り付け、解き方ごとに提出ボックスに提出するようにする。 ・自分の考えとの共通点や違いに着目させ、考えを深めたり広げたりできるようにする。 ・求め方が思いつかない児童には、図形にもマス目が入ったカードを渡す。 ・面積を求めることができた児童には、オクリンクプラスのカードボックスから、別の小学校や中学校の図形を出し、面積を求めさせる。
<p>・出っ張りの部分を切って、2つの長方形として求める。</p> 	<p>・大きな長方形から、余分な分を引いて求める。</p> 	<p>・小さな長方形と大きな長方形を組み合わせる。</p> 				
まとめる10分	<p>○面積の求め方をまとめよう。</p> <p>図形を分けて、いくつかの長方形や正方形として、面積を足したり、大きな長方形として、余分な面積を引いたりして求める。</p> <p>○振り返りをしよう。 ・実際の学校の大きさはどのぐらいなのかな。 ・1辺がmやkmだったらどのぐらいの大きさになるだろう。</p>	個全体個	<ul style="list-style-type: none"> ★複合図形の面積を多様な見方で正方形や長方形として捉えて求めていたか。 [オクリンク] ・視点を記載した、振り返りシートを見ながら振り返りを書くように声をかける。 			

(3) 誰一人取り残さないための手立て

児童が問題を自分ごととして捉えることができるように、実際の土地と課題を結び付けて提示する。(児童が課題を捉え、子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

自己存在感：②一人学びの時間を設定する。(生徒指導の視点)

算数科 5年1組授業案（5年1組教室）

授業者 土井 新太郎

1 単元名 図形の面積「四角形と三角形の面積～どんな形でも面積は求められるかな？～」

2 単元目標

- (1) 必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 （知識及び技能）
- (2) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、既習した図形の求積方法を基に考えることができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

3 単元計画

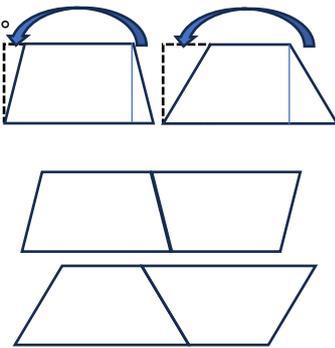
軸	時数	○学習課題 ◎学習問題	★評価（知技／思判表／態度）
どんな形でも面積は求められるかな？	1	○平行四辺形の面積を求めよう。 ◎どうやって求めればよいだろう。	★必要な部分の長さを用いる面積を求めている。（知技）
	2	○公式を作ろう。 ◎どこの長さが必要だろう。	★公式が通用する底辺の範囲を考えている。（思判表）
	3	○高さの測り方を考えよう。 ◎どのように高さを測ればよいだろう。	★求積可能な図形に帰着させて考えるというよさに気づき、平行四辺形、三角形、台形の面積を求めようとしている。
	4	○底辺の長さを求めよう。 ◎どんな平行四辺形でも求められるだろう。	（態度）
	5	○三角形の面積を求めよう。 ◎三角形の面積はどうやって求めればよいだろう。	★底辺と高さの関係を理解している。（知技）
	6	○底辺と高さの関係を調べよう。 ◎どこの長さが必要だろう。	★三角形の面積が高さと底辺の長さによって決まることを理解している。（知技）
	7	○高さが外にある三角形の面積を求めよう。 ◎どこの長さが必要だろう。	★三角形の求積公式から、高さを求めている。（知技）
	8	○面積と底辺の長さから高さを求めよう。 ◎面積と底辺の長さとはどのような関係なのだろう。	★既習の考えを使って、求積方法を導き出そうとしている。（思判表）
	9 本時	○どちらの台形の面積が大きいのか考えよう。 ◎台形の面積を求めるにはどうしたらいいだろう。	★既習の求積公式がどのような図形まで通用するか試そうとしている。（態度）
	10	○いろいろな台形の面積を求めよう。 ◎どんな公式になるだろう。	
	11	○ひし形の面積を求めよう。 ◎どんな公式になるだろう。	
	12	○いろいろな図形に挑戦しよう。 ◎作った公式がどこまで通用するだろう。	
	13	○発展問題に挑戦しよう。 ◎作った公式がどこまで通用するだろう。	

4 本時の授業 (9/13)

(1) 本時の目標

異なる形の台形の面積を比べる方法を考える活動を通して、求積可能な図形を基に台形の面積の求め方を考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 授業過程

時	学習活動 (○教師の働きかけ ・児童の反応, 活動)	形態	・留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物
つかむ5分	<p>どちらの台形の面積が大きいのか考えよう。</p> <p>A  B </p> <p>○台形の面積の求め方を考えよう。 ・平行四辺形や長方形に形を変えれば求められるかな。 ・どの辺の長さを調べる必要があるかな。</p>	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・図形には長さは示さず,子どもたちの要求を待って方眼で提示するようにする。 ・図形を変形するという発言に対して, 前時までの振り返りを全体で行い, 見通しをもたせる。
追究する30分	<p>台形の面積を求めるにはどうしたらいいだろう。</p> <p>○A・Bの台形の面積を求める。 ・切り分ければ同じ面積の長方形を作ることができる。 ・二組を合わせて2倍の面積の平行四辺形を作る。 ・AとBの上底と下底の合計が等しくなっている。</p> <p>○考えを比較して共通点を見つける。 ・どちらも上底と下底, 高さの数値を使っている。</p> 	全体 個 小集団	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学びの時間を確保し, 一人一人の考えを尊重する。 ◆考えはオクリンクに提出させ, 参照できるようにする。 ・具体物を用意し, 形を変形しても面積は変わらないことに気付くようにする。 ・話合いの視点として, 自分の考えとの違いに着目させる。 ・全体での話合いでは, お互いの意見の共通点について話合い, 分類させる。
まとめる10分	<p>○面積の求め方について学んだことをまとめよう。</p> <p>台形の面積は, 三角形や平行四辺形など, 面積の求め方を知っている図形に形を変えれば, 求めることができる。</p> <p>○学習をふり返ろう。 ・他の図形みたいにもっと簡単な方法はないかな。 ・この求積公式は他の図形でも通用するのかな。</p> <p>○これからの学習計画を見直す。 ・どんな図形も今回のように面積を求めることができる図形に形を変えれば, 求めることができると思う。</p>	全体 個 全体	<ul style="list-style-type: none"> ★いくつかの図形に分けたり, 組み合わせたりしながら, 求積可能な図形を基に台形の面積の求め方を考えていたか。 [ノート] ・一人一人児童の言葉でまとめさせる。 ・「横須賀型の学びの振り返り」の視点で振り返りを書くことを確認する。

(3) 誰一人取り残さないための手立て

目的をもって, 既習の様々な図形の求積方法を自分たちで探すことができるように, 第一時に最終問題 (一般四角形の面積の大小を問う問題) を提示する。

(児童が課題を捉え, 子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

自己存在感: ②一人学びの時間を設定する。

(生徒指導の視点)

算数科 6年2組授業案（6年2組教室）

授業者 立岩 俊浩

1 単元名 並べ方と組み合わせ方「落ちや重なりがないように整理しよう」

2 単元目標

- (1) 起こり得る場合を、表や図に順序よく整理することで、落ちや重なりなく並べ方や組み合わせ方を調べることができる。(知識及び技能)
- (2) 事象の特徴や条件に着目し、落ちや重なりなく調べる方法を工夫したり、表や図を使って並べ方や組み合わせ方が何通りになるのかを説明したりすることができる。(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 起こり得る場合について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用したりしようとしている。(学びに向かう力, 人間性等)

3 単元計画

軸	時数	○学習課題 ◎学習問題	★評価（知技／思判表／態度）
生活の中にある並べ方や組み合わせ方は、どのようにすれば落ちや重なりなく調べることができるだろうか。	1	○ハンバーガーセット(バーガー・ポテト・ドリンク)を食べる順番とハンバーガーセットから2つ選んで食べる場合の違いを考えよう。 ◎並べ方や組み合わせ方は、生活の中で他にどのような場面で使われているだろうか。	★並べ方や組み合わせ方の特徴に着目し、身の回りで使われている場面や相違点を考えている。 (思判表)
	2	○3人のリレー選手が走る順番にどのような場合があるか調べよう。 ◎落ちや重なりがないように走る順番を調べるには、どうしたらよいだろうか。	★落ちや重なりなく調べる方法を工夫し、表や図に整理された並べ方が何通りあるのかを説明している。 (思判表)
	3	○4人の班で班長と副班長を決めるとき、全部で何通りあるか調べよう。 ◎全部ではなく、いくつかを選んだ場合は、どのようにして調べればよいだろうか。	★条件に合った表や図を表し、並べ方を調べている。(知技) ★1回の結果が2通りの場合について、表や図に順序よく整理して並べ方を調べている。(知技)
	4	○サッカーのペナルティーキックを3回連続でしたとき、結果にはどのような場合があるか調べよう。 ◎1回の結果が2通りあるとき、どのようにして調べればよいだろうか。	★落ちや重なりなく整理できる表や図のよさを生かし、並べ方を調べている。(態度)
	5 本時	○4つのチームでティーボールの試合を行います。どのチームとも1回ずつ試合をすると全部で何試合になるか調べよう。 ◎落ちや重なりがないように調べるにはどうしたらよいだろうか。	★表や図を使って場面を整理しながら、落ちや重なりなく調べる方法を説明している。(思判表) ★起こり得る場合を表や図に整理し、落ちや重なりなく調べている。(知技)
	6	○5種類のお菓子の中から2つ選ぶとき、どんな組み合わせがあるか調べよう。 ◎何個かあるものからいくつか選ぶときは、どのようにして調べればよいだろうか。	★起こり得る場合について図や表にまとめる方法を振り返り、並べ方や組み合わせ方を調べている。(態度)
	7	○並べ方や組み合わせ方の問題を解こう。 ○ティーボールのチームの打順が何通りあるか調べよう。 ◎落ちや重なりがないようにするためには、どのようにして調べるとよいだろうか。	

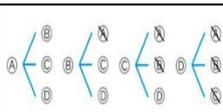
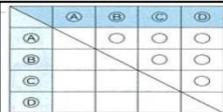
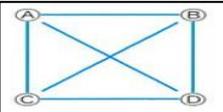
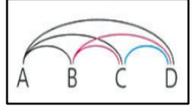
4 本時の授業 (5/7)

(1) 本時の目標

4つのチームで総当たり戦を行うときの試合の組み合わせを考える活動を通して、表や図で場面を整理しながら落ちや重なりなく調べる方法を説明することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 授業過程

時	学習活動 (○教師の働きかけ ・ 児童の反応, 活動)	形態	留意点 ◆ICT 機器活用 ★評価 [] 評価物
つかむ 7分	4つのチームでティーボールの試合を行います。どのチームとも1回ずつ試合をすると全部で何試合になるか調べよう。 ○前時までの学習との違いを考える。 ・4チームから2チーム選ぶのかな。 ・A対BとB対Aは同じなのか。 ・前回とどう違うのだろうか。	全体	・体育科の時間と結び付けた題材を学習課題に取り上げることで、児童が興味関心をもてるようにする。 ・今までの学習との相違点を確認し、学習問題に繋げていく。
追究する 28分	落ちや重なりがないように調べるにはどうしたらよいだろうか。 ○試合数の数え方の見通しをもつ。 ・樹形図を使えば解けるかもしれない。 ・表でまとめられるかもしれない。 ・落ちと重なりなく調べるにはどうしたらいいのだろうか。 ○オクリンクに考えを記入する。 ○学習班で考えの交流をする。 <考え方の例>  ⑦樹形図を使って考えた。重なりのある部分は消した。  ①対戦表を使って考えた。同じ組み合わせがないように○を付けた。  ⑦頂点を結ぶ線で組み合わせを考えた。重なりがなく組み合わせを考えることができた。	全体 個 / 小集団	・一人学びの前に課題解決に向けての見通しを確認し、児童が考えをもてるようにする。 ・今回の問題の場合の落ちや重なりについて確認し、落ちや重なりなく、順序よく考えることに焦点化する。 ◆考えが1つできた場合は提出し、違う解き方に取り組むように促す。友達の考えを参照したり質問したりできるようにして自分の考えがつかれるようにする。 ◆学習班で考えを交流する際に、1種類の考えのみの場合は、オクリンクの提出ボックスを見るように声を掛け、他の解き方について知ることができるようにする。 ・考えを交流する際に聞く視点を確認する。伝える側は、「①落ちや重なりがないようにどのような調べ方で試合数を求めたか②試合数と試合の組み合わせを伝えること」、聞く側は「自分の考えとの共通点や相違点を見つけること」を確認する。 ・お互いの考えの違いや同じ点に気付けるように話合いの時間を確保する。 ・⑦①⑦の考え方について、学習班で話し合う時間を設定する。児童から出なかった考えは、教師から提示し、多様な表現に触れられるようにする。 ・全体交流では、学習のまとめとつながるように進めていく。
まとめる 10分	○考えを共有する。(全体交流) ・樹形図にまとめた。A・B・C・Dから重なりがないようにまず先頭を決めて2チームずつ選んだ。 ・どの考えも順番を決めて数えている。 ・最初は分からなかったけど、友達のを聞いて理解できた。 ○考え方の共通点を探したり、落ちや重なりがないようにするための方法を考えたりして、まとめを行う。 ・どの考えも順序を決めている。 ・重なりが出ないようにまず先頭を決めている。 ・B→C→A→Dのように調べるのではなく、順番があると落ちや重なりなく調べられる。 落ちや重なりなく調べるためには、表や図を使って整理し、先頭を決めて順序よく数える。 ○本時の学習を振り返る。 ・今回の学習では、4チームで考えたが、チームが増えても同じ考え方でできるのかな。 ・自分は樹形図で考えたが、対戦表でも整理して調べることができる。	全体 個 全体 個	・時間がある場合、左の考えを紹介し、どのようにして試合の組み合わせを調べたのかを話し合う。  ・児童が自分の言葉で学習のまとめを書いた後、学級全体でも本時のまとめを確認する。 ★表や図を使って場面を整理しながら落ちや重なりなく調べる方法を説明していたか。 [ノート、オクリンク、発言] ・「横須賀型学びの振り返り」の視点で振り返りを書くことを確認する。

(3) 誰一人取り残さないための手立て

学習問題を学校生活に関連する内容にして、児童が興味をもち、自分ごととして課題を捉えられるようにする。

(児童が課題を捉え、子どもたち自身で課題解決ができる授業づくり)

共感的な人間関係:④お互いの考えの違いに気付かせるための話し合いの時間を設定する。

(生徒指導の視点)